

**【議題1】札幌市 ICT 活用戦略改定案（骨子）の検討について**

**【論点1】データの協調利用による地域課題の解消について**

- たくさんのデータを集めたからといって、それで地域課題が解決できるわけではない。まずは解決すべき課題が先にあり、それを解決する手段としてデータを活用するという流れが自然ではないか。データを集めれば課題が解決するものではないはず。
- データを集める枠組みを作りたいという意図はわかる。しかし、どのような課題を解決するために、どのようなデータを集めて、どのように活用するのかということを整理する必要がある。
- 官民データの協調利用により考えられる取組について、内容が飛躍し過ぎている。例えば、除排雪は「自動化」ではなく「省力化」のほうが現実的な課題である。もっと具体的で身近なものを取り上げるべき。
- 10年後を見通した計画ということだが、2～3年後、5年後の状況も示したほうがよいのではないか。
- データの活用には「風が吹けば桶屋が儲かる」的な部分があり、データを活用して直接的な効果を出せる事例は少ないのではないかと考えている。例えば、降雪データについて、市民が直接活用する機会は少ないと思うが、駐車場の管理をしている事業者からすると、それはとてもありがたいデータで、そのデータをもとにすぐに除雪ができ、それによって駐車場を利用する市民が喜ぶという構造だと思う。事例を作る時には、「風が吹けば桶屋が儲かる」という視点で考えることも重要ではないか。
- 札幌の課題を数値で示し、市民に伝えることも重要かと思う。それらの課題の解決にオープンイノベーションの視点を入れ、アイデアを募集するといった取組もよいかもしれない。

## 【論点2】札幌 ICT 活用戦略の構成について／「ICT 活用施策の方針」について

- 国が強く推進するよう求めている「クラウド・バイ・デフォルト」の考え方をに入れてほしい。
- 首都圏からメインの仕事を持ってくると考えるべき。札幌で行える仕事の質が高まり、給与も上がっていくというのが理想。また、札幌は北海道の中心都市でもあるので、札幌がそうした仕事を道内の地方の人材に担ってもらうことも考えてはどうか。札幌に通えない道内の埋もれた優秀な人材を札幌の企業がテレワークで雇用し、その土地に住みながら働いてもらうことも重要。
- 人材育成は重要であるが、プログラミングを教えることのできる人材を育成することも必要。また、データサイエンティストも重要であるが、データを分析して課題に落とし込める人（コーディネーター、デザインできる人）の育成も重要。
- チ・カ・ホなどをモデルにし、ビーコンと人流センサーを利用して人の流れと交通量を把握できるようにし、大型のビル空間の空調、冷暖房、照明、エレベーターやエスカレーターなどの動作を、人流、曜日、イベントなどにあわせて最も効率的に行うといった事業は、やろうと思えばすぐにでもできるので、そうした取組を1つのモデルとしてやっていくのはどうか。
- データの蓄積、共通化、再利用のサイクルを積み重ねていくことが重要だが、そのためには、それを進めるためのセクションが必要。役所内部同士や役所と民間をつなぐ部門を作る必要がある。
- 「現実的な施策」と「チャレンジすること」の二段階の整理があってもよい。

以上